

魚の“旬”をお知らせします！ 魚市場水揚げ通信

女川魚市場 編

12月号



宮城県東部地方振興事務所水産漁港部
「みやぎ水産の日」PR広報紙 vol.41(1) (平成30年12月27日発行)

今月の水揚げ状況

12月も下旬となり、サンマ漁は終漁しました。今年のサンマは魚体が大きく脂がのっており漁獲量も不漁だった前年を上回り、数量で15,460ト(前年比163.7%)、金額で27億240万円(前年比125.3%)でした。来年も豊漁になるよう期待しております。(データ提供:女川魚市場)

取材当日には金華山や江島周辺の定置網漁船が水揚げしていました。

定置網

マトウダイの名前の由来は魚体の中心にある斑紋(はんもん)が『的』のようであるという説や、顔が馬に似ている「馬頭(マトウ)」などがあります。冬が旬の魚でムニエル料理などが有名です。



船倉からの水揚げ



魚種毎の仕分け作業



チダイ



マダイ



マトウダイ



ヤリイカ



ウマズラハギ



ワカシ



サワラ



カタクチイワシ



ヒラメ



キアッコウ



マサバ



イシダイ



今年一年を振り返って

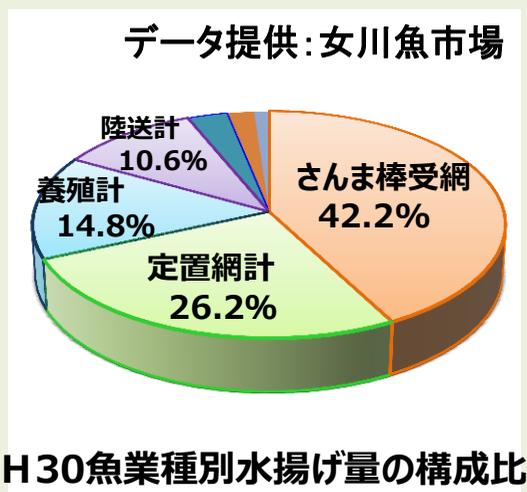
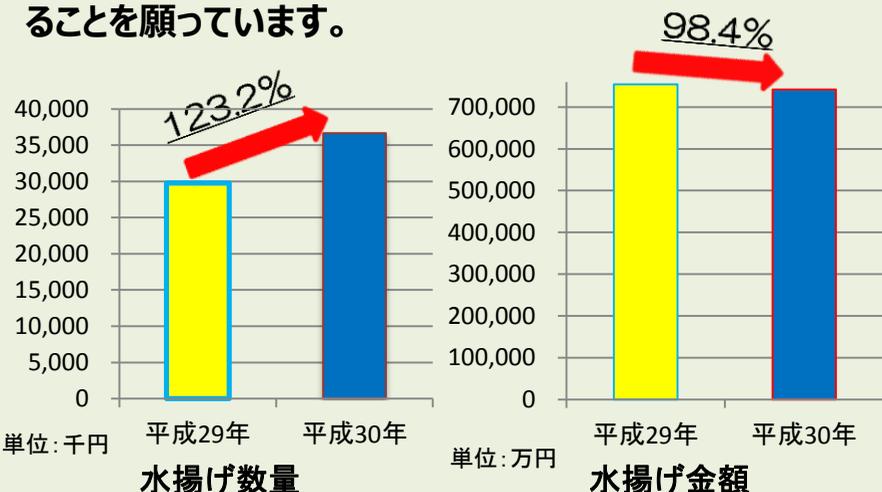
株式会社女川魚市場 木村部長にインタビューしました。

今年はなんと言ってもさんまの回復がありました。秋から順調に推移した水揚げ量は、一昨年並みの水準まで回復しました。さんまの水揚げによる賑わいは、女川の風物詩なので、来年以降も継続して欲しいものです。水揚げ量では微減したギンザケも好調だったといえるでしょう。

※養殖『銀ざけ』は数量で5,413ト(前年比99.9%)
金額で32億4600万円(前年比95.1%)

一方で、こうなご、さば、かつお及びたらについては残念ながら低調に推移しました。これには水温上昇や資源減少などの理由があるように思われます。

全体としてみると、『一昨年の水揚げ水準に回復した一年』といえるのではないのでしょうか。来年も安全に気をつけながら豊漁となることを願っています。



H30魚業種別水揚げ量の構成比

編集後記

早いもので今年も終わりです。私自身、通信の取材に携わるようになってから、水揚げ作業中の活況、目利き・入札の緊張感等、はじめは圧倒されるばかりでした。この通信の魅力の一つは魚市場を定点観測的に見ていることです。月ごとの変化を速報的に見るのも面白いですが、例えば今年を振り返るため、HPに掲載されているアーカイブをご覧になると更なる発見があるかもしれません。お世話になった市場関係者の皆様と読者の皆様、一年間ありがとうございました。よいお年をお迎えください。(M・K)

[お問合せ先]
宮城県東部地方振興事務所
水産漁港部
TEL:0225-95-7914, 1473